

携帯トイレ利用適地情報の試案について 大雪山国立公園・旭岳－裾合平コースを事例に

土栄拓真（登山ガイド・山樂舎B E A R）

はじめに

不適切な処理、大便や紙の見た目の悪さ、水質・土壌汚染の懸念、植物の踏みつけなど、さまざまな「山のトイレ」問題への対策として、近年携帯トイレの利用が官民ともに推奨されている（大雪山国立公園管理計画書、山のトイレを考える会など）。しかし一方で、実際に携帯トイレを利用することは一般の登山者にとっていまだ心理的抵抗の高い行為である。携帯トイレ利用を促進するには、マナーの啓発とともに、安心して使える場を提供するなど心理的抵抗を低くすることが重要であるといえる。

携帯トイレブースは解決策の一つであったが、もともと設置された数が少ない上に、大雪山国立公園・裏旭野営指定地のように壊れて撤去されたのち再設置されていない場合さえあり、十分な役割を果たしているとは言い難い。携帯トイレブースがない場合には、茂みに身を隠すなどする必要があるが、人目につかず用を足せる場所がどこにあるかという情報はほとんどない。

そこで本稿では、大雪山国立公園・旭岳－裾合平コースを例として携帯トイレ利用適地情報の試案を示し、携帯トイレ利用促進についての有効性を議論する。

携帯トイレ利用適地とは

携帯トイレ利用適地の条件は以下の四点にまとめられる。まず利用者の安心感を満たすこと。安心して用を足すには人目につかず人の気配から離れていることが求められる。第二に安全な場所であることが重要である。この二つが満たされていない場合、一般登山者に携帯トイレの利用を促すことは難しいと思われる。第三に自然環境に影響を与えないことが挙げられる。そもそも携帯トイレの利用は水質・土壌汚染や植物の踏みつけなどの問題に対処すべく推奨されているのであり、それらの問題を悪化させるような方法で利用するのでは意味がない。最後に他の登山者の迷惑にならないことである。例えば水場のすぐ近くなどは不適である。たとえ完璧に携帯トイレを使いこなしていたとしても水場の近くで用を足されて嬉しいと思う登山者はいないだろう。

本稿では、携帯トイレ利用を促進するという観点から、安心・安全条件を主要条件とし、環境・迷惑条件を付随条件と定義する。

大雪山国立公園のトイレ状況

大雪山国立公園は北海道中央部に位置する日本最大の国立公園である。公園地域北部は

表大雪と呼ばれ、北海道最高峰の旭岳を中心として標高2,000m台の高山帯が広がる。夏山登山を目的とする利用者が多く訪れる山域である。一年のほとんどの期間を雪に覆われるため、一般的な登山シーズンは六月下旬―九月の約三ヶ月間と短い。高山植物が見頃となる七月と紅葉盛期の九月中―下旬は、特に登山者が集中する時期である。

登山口の多くにはトイレ施設が設置されている一方、山中のトイレ施設は少ない。ほとんどは避難小屋など宿泊拠点に併設されているだけである。携帯トイレブースは行動中に使える場所もあるがごく少数である。まとめると、一日の行程中、トイレ施設は出発点と到着点にしかなく、行動中に使える場所はわずかである。森林限界上に台地状の山容が広がり、植生は概して背が低いため、身を隠す場所がほとんどなく、携帯トイレ利用適地にも乏しい山域である。

旭岳―裾合平コースのトイレ状況

旭岳―裾合平コースは旭岳ロープウェイ姿見駅を起点・終点とする、大雪山の中でも人気の高い周回コースである。一周に要する時間は一般に六時間から七時間程度。歩行距離は約12kmである。コースの起点・終点となる姿見駅にはトイレ施設があり、駅舎から近距離に位置する石室にはトイレブースがある。その二ヵ所以外、行動中に利用できるトイレ施設はない。コースの大部分は高山帯を通過するため身を隠せる植生には乏しいが、現状でトイレとしてよく利用されている地点を中心に、携帯トイレ利用可能地点を以下の四ヵ所挙げる。

金庫岩（写真1）：旭岳九合目から旭岳山頂の間に位置する。平坦地が若干広がり、金庫岩をはじめ大きな岩が点在する。ニセ金庫岩と呼ばれる巨岩に向かい、登山道沿いに張られたロープを越えて数m行くと岩に隠れて用を足せる。植生はまばらで避けて歩くことは十分可能である。コース中最も登山者の往来が多い。

裏旭野営指定地（写真2）：旭岳と熊ヶ岳の間の鞍部に設置された野営指定地。テントが張られていることはあまりなく、風よけの石積に隠れて用を足す人が多い。広さがあるためツアー登山など大人数パーティーがトイレとして利用することがある。

中岳温泉上（写真3）：中岳温泉から中岳分岐方向へ登り、尾根に出た地点。踏み跡をたどってハイマツの茂みの中に入っていく。中岳温泉で昼食休憩を取る場合、その直近に位置するため利用価値が高い。

裾合分岐脇沢（写真4）：裾合分岐から当麻乗越方面に進むと、枯れ沢が数本登山道を横切る。登山道から外れ沢筋に入る。

携帯トイレ利用適地情報の作成方法

上に示した四ヵ所の携帯トイレ利用可能地点について、安心感・安全・環境への影響・他登山者への迷惑の四条件について三段階評価を行った。評価基準を表1に示す。安心感については身を隠せるほど高評価とした。安全についてはトイレ地点に子供を一人で行か

せられるかどうかを指標とした。安全なほど高評価となる。環境への影響については、植生の踏みつけに注目し、踏みつけが少ないほど高評価とした。他登山者への迷惑については、他の登山者が不快感を感じないほど高評価とした。各条件について○に2点、△に1点、×に0点を与え、総得点0～4点を×、5～8点を△、9～12点を○として総合評価とした。なお、主要条件と定義した安心・安全条件については○に4点、△に2点とし付随条件の倍の点を与えた。

携帯トイレ利用可能地点を評価した結果を表2に示す。四地点の中では中岳温泉上が唯一総合評価○を得た。他の三地点は△に留まった。表2の結果を用いて携帯トイレ利用適地情報を図1に示す。コース図にトイレ地点を明示し、トイレ施設・携帯トイレブースの有無、携帯トイレを利用するのに適しているかどうかを表した。参考として各トイレ地点間の所要時間の実例を示してある。

携帯トイレ利用適地情報の考察

携帯トイレ利用適地情報は既存のトイレマップ（例えば山のトイレを考える会・北海道の登山口トイレ情報など）を補い、より詳細なトイレ情報を登山者に提供する。山中のどこにどんなトイレ地点があるかあらかじめはっきりと把握できれば、出発前におおまかな予定を立てることができ、行動中も自身の体調を考慮しながら次にどこで用を足すべきか決められる。登山者の安心感は増すであろう。また四条件それぞれの評価結果を併せて公開すれば、例えば安心感を重視する登山者は完全に身を隠せる地点を選び、環境意識の高い登山者は環境に影響を与えないトイレ地点を選ぶことができる。それぞれの考え方に応じて使い分けることができるため、結果として携帯トイレ利用の動機付けになると思われる。

さらに、トイレ利用を適切な地点に限定する効果もある。施設を作り管理することと比べてはるかに低コストであり、これらは管理側の利点である。

一方、実用に役立てるにはまだ改善点も多い。第一に、携帯トイレ利用可能地点の数を増やす必要がある。先に挙げた地点は現在実際にトイレとして使っている場所を例としただけであり、もっとたくさんの地点を候補に挙げてそれぞれに評価を行っていくことが重要である。同時に対象範囲を広げる必要もある。できれば大雪山域全体の図を作ることが望ましい。

第二に、評価方法についても改善が可能である。今回の評価は暫定的に主観で行ったものであり、実際には客観的基準を設けて評価を行うことが期待される。また評価条件そのものの変更も考えられるし、新しい条件を加えても良い。例えばトイレ施設がある出発点・到着点からの所要時間などは登山者にとって重要な指標となるであろう。時間がかかる場所にあるものほど価値が高いと考えられるからである。また、評価の重みづけを変えてもよい。今回は登山者の安心・安全を重視したが、環境への影響を重要視する場合には環境条件の得点を倍にするなどして対処できる。その際、大雪山国立公園で既に用いられてい

るようなROS手法と組み合わせることも考えうる。

第三に、図そのものの見やすさにも改善が必要となろう。登山者が携帯トイレを利用するきっかけとなるためには、情報をどのように表すべきなのは最も重要な点である。

おわりに

大雪山を訪れる登山者はトイレ問題をはじめとする山の環境問題に対して大変高い意識を持っている（筆者が2003年に行ったアンケート調査では、「非常に関心がある」57.4%、「多少関心がある」39.7%という結果であった）。それにも関わらず、もし携帯トイレの利用が広まっていないのだとすれば、登山者側の問題というよりは管理側の問題が大きいのではないだろうか。それは、汚物を持ち運ぶことへの嫌悪感や、下山後の処理の面倒さに加え、山中で携帯トイレを利用しやすい場所がない、もしくはどこですれば良いのかわからないということが一因であろう。携帯トイレを使える場所があるということを情報発信することで、携帯トイレを用意する人が増えてくれる可能性があり、実際に使う人も増えることが期待できる。

理想としては各登山コースの要所にトイレ施設があることが望ましいが、予算的にも管理の手間を考えると環境的にも実現は難しい。携帯トイレ利用適地情報は、利用者にとっては使い勝手の良い、管理者にとっては低コストで山のトイレ環境を改善することができる現実的な手段となりうる。キャンプをする場合に野営指定地が設けられているように、ゆくゆくは用を足すのに適したトイレ指定地のようなものに発展させることができるかもしれない。



写真1 金庫岩周辺



写真2 裏旭野営指定地



写真3 中岳温泉上



写真4 裾合分岐脇沢

表1 トイレ適地の条件を評価する基準

評価 トイレ適地の条件	○	△	×
安心感	完全に身を隠せる	方向によっては隠れない	身を隠せない
安全	子供を一人で 行かせられる	視界に入っていれば 一人で行かせても構わない	子供一人では 行かせられない
環境への影響	植生なし	植生の中の踏み跡をたどる	植生を踏みつける
他登山者への迷惑	他登山者が何も感じない	他登山者が ほとんど気にしない	他登山者が 不快感を覚える

表2 大雪山国立公園・旭岳－裾合平コースにおける携帯トイレ利用可能地点の評価

携帯トイレ利用可能地点	総合評価 (点)	主要条件		付随条件	
		安心感	安全	環境への影響	他登山者の迷惑
金庫岩	△ (7)	△	△	○	△
裏旭野営指定地	△ (8)	△	○	○	×
中岳温泉上	○ (11)	○	○	△	○
裾合分岐脇沢	△ (8)	○	×	○	○

